



JAPANESE B – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Monday 15 May 2006 (morning)

Lundi 15 mai 2006 (matin)

Lunes 15 de mayo de 2006 (mañana)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1.
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

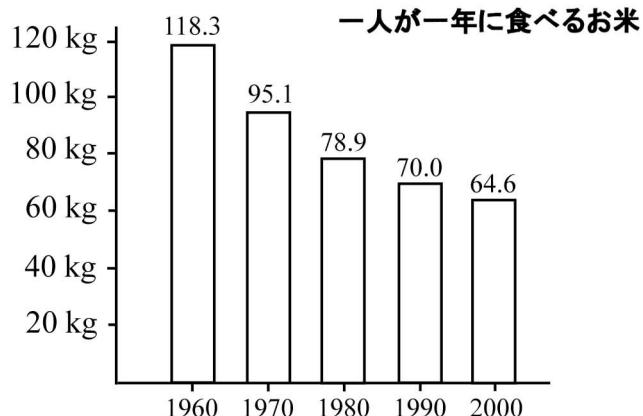
CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la Prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

第一部

問題 A

ご飯パワー



日本人が食べるお米 – 40年で半分に

新米がお店にならぶ季節になりました。でも、日本人が食べる米のりょうは毎年へっています。1960年には一人一年 118.3 キロ食べましたが、2000年には一人 64.6 キロと、やく半分になりました。

「ご飯を食べると太る」というのは本当？

それは全くちがいます。



「朝ご飯をしっかり食べると勉強できる」というのは本当？

本当です。朝ご飯は寝ている間に下がった体温を上げ、体を温めます。それで、ねむっていた体にエンジンをかけるのです。また、休んでいた頭の活動も活発になります。



最後に

朝ご飯を食べないと、エネルギーが足りなくて、勉強にがんばれなくなります。

特におすすめしたいのが、ご飯とみそしるを中心とした朝ご飯。

おいしいし、一日の良いスタートになります。



問題 B

地震やつなみについて 日本の大学の教授がスマトラ島で授業

2004 年 12 月に起きたインドネシアのスマトラ沖大地震とつなみ。2005 年の 4 月に日本土木学会のメンバーがスマトラ島バンダアチェ市に むかいました。学校や社会センターへ行って、若い人たちに、地震や つなみについて説明するためです。

出かけたのは、土木学会の教育チームのリーダー、早稲田大学理工学部教授の浜田先生他、合計 4 人のチーム。日本から持っていった紙しばいやアニメ、パソコンで見られる図などを使って、地震や つなみについて説明しました。

1000 人の子どもが集まったバンダアチェ国立第一小学校では「地震にも負けないぞ」という日本の紙しばいを見せて、授業をしました。ふかい海なら、つなみは時速 500 キロ以上のスピードが出る事などを説明して、地震があったら、まず にげようと教えました。

中学や高校では日本のアニメ「いなむらの火」を見せました。日本のむかしの実話です。つなみが来る事を予感した一人の老人が、かりとったばかりの いね(注 1)に火をつけて、村人に危険を知らせたという話です。

「日本では地震やつなみの事をくわしく知っていたのに、どうして私達に教えてくれなかったのかと聞いた少女がいて、心が いたみました。」と浜田先生。今後も、授業を続ける予定だそうです。

注 1



授業のようす

問題 C

高橋さんが しょうかいする おもしろい 本

さとし 聖の青春

しょうぎに いのちを かけた 29年

一九九八年八月、一人の天才きし（注1）がこの世をさりました。彼の名前は村山聖。五才の時に重い病気になつて、入院しなければなりませんでした。

病院で長い間じつとしていなければいけない時に、お父さんがしょうぎ（注2）を教えてくれました。すると、すぐにしょうぎが大好きになつて、文字通り毎日毎日朝から晩までしょうぎをさし続けました。

すると、聖は しょうぎがどんどん強くなつて、大人でも負けてしまうようになつたのです。そして、大きなゆめを持つようになりました。
「プロになつて、名人になる」と。

しかし、病気はいつまでも聖をくるしめ続けます。大事な対局（注3）があるのに、体が動かないのです。医者は入院しなければいけないと言うのですが、聖は言う事を聞かないで、がんばつて対局場にむかいました。自分の体がどうなつても、大切なゆめをかなえたかつたのです。

この本は、そんな聖の明るい二十九年をえがいた本です。



高橋和さん（女性プロきし）



しょうぎ

さとし
聖の青春
こうだんしゃとりぶんこ
講談社青い鳥文庫

品切れ

図書館でさがしてね！

注 1 きし=しょうぎを さす（する）人

注 2 しょうぎ=日本の むかしからの 遊び。チェスに にている。

注 3 対局=しょうぎの しあい

第二部

まもう みんなの 里山

里山は、山と人のいる都市との中間にあります。むかしは、里山に生き物がたくさんいました。しかし、今、里山は少なくなっています。そんな里山をまもるために、いろいろな活動が行なわれています。

滋賀県の「子ども かんきょうクラブ」のメンバー20人は23日、「びわ湖バレイ」にやってきました。里山について勉強するためです。びわ湖バレイの石川さんは「木が多すぎると、木の下の所が暗くなりすぎて、草花が育たなくなってしまいます。みんなで、きれいな森をつくりましょう。」と話しました。

320,000 m²の広さの森。みんなは、1時間ぐらいかけて、長すぎるえだ（注1）や木を切りました。「みどりはたくさんあったほうがいい。でも、たくさんの生き物が住みやすい森をつくるためには、いろいろ考える必要があるんですね。」と6年生の島君は話していました。

自然を大切にするために、切ったえだを使って工作もしてみました。また、川の水質や森の生き物についても調べました。

子どもを手伝うサポーターとして活動した神田さん（高2）は、「いろいろ質問されて、大変だった。でも、子どもを手伝うのは、とてもおもしろかった。自分が学んだ、自然をまもる事の大切さをたくさんの人たちに伝えたい。」と話していました。

注1　えだ



切ったえだを使って工作



びわ湖バレイで